多文化共生

体験塾 in 名古屋 実施報告
～多文化共生のカギを握るキープレイスの実践～

（一財）自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課　PC　岡本　ジュリア

体験塾について

「体験塾」は、多文化共生の先進地を訪問し、自治体や地域国際化協会、NPO などの取組事例を現場で学ぶ体験型研修です。参加者の施策立案力の向上とネットワークづくりを目的としています。今年度は「多文化共生のカギを握るキープレイスの実践」をテーマに、2025 年 10 月 29 日から 2 日間にわたり愛知県名古屋市で先進事例を学びました。

1 日目：キープレイスについて学ぶ

■オリエンテーション

1 日目は、はじめに、参加者が自らの地域の魅力などを共有し、和やかな雰囲気でスタートしました。

続いて、研修ファシリテーターである（公財）名古屋国際センター 事業課主幹 勝千恵子氏から、今回のテーマである「キープレイス」についてご説明いただきました。キープレイスとは、人と人が出会い、つながり、安心して話せる地域の拠点のことで、多文化共生活動を持続的に支える重要な場を指します。

■（公財）名古屋国際センター

名古屋国際センターは、多言語での情報提供や生活相談、日本語教室の運営、ボランティア制度の推進などを通じて、地域に根ざした多文化共生の実現に取り組んでいます。

参加者は、情報カウンターやライブラリー、交流スペースなどを見学し、これらの施設が外国にルーツを持つ人々や地域住民にとって、身近で頼れる「拠点」となっていることを実感しました。

■（一社）DiVE.tv　活動紹介

代表理事の牧野佳奈子氏から、多文化共生をテーマに活動する DiVE.tv の取り組みについてお話しいただきました。外国にルーツを持つ高校生を対象としたイベント「It's ME Camp」や、日本語教室、SNS 発信など、多様な場づくりを展開しており、地域と外国人の若者をつなぐ活動の工夫や意義を学びました。

■名古屋市立なごやか中学校

2025 年 4 月に開校した夜間中学校を訪問しました。夜間中学校は、外国にルーツを持つ方が日本語を学び、日本の社会についての理解を深める場として重要な役割を果たしています。佐村明生校長から学校の設立経緯や運営体制について説明を受けた後、授業の様子を見学しました。

生徒は日本人と外国にルーツを持つ人がほぼ半数ずつで、年齢層も幅広く、80 代の生徒も学んでいます。多様な背景を持つ人々が共に学ぶ姿から、地域における共生の可能性を感じました。

なごやか中学校　講義の様子

■ワークショップ＆振り返り

1 日目の最後は、勝氏のファシリテーションのもと、グループワークによる振り返りを行いました。参加者は「外国人住民の増加を地域でどのように受け止めるか」「“キープレイス”という新たな視点の活用」「多文化共生の成果の見えにくさ」などについて意見を交わしました。さまざまな課題がある中で、「地域での共生を実現

するために、自分にできることから始めたい」という前向きな声が印象的でした。

2日目：港区でキープレイスを体験する

■名古屋市港区役所・港防災センター

港区は名古屋市16区の中で外国人人口が最も多く、共に地域社会の一員として生活していくために、外国人住民が日本の慣習などを理解し、安心して暮らし、地域活動に参加できる環境づくりが課題とされています。

港区役所区政部地域力推進課課長補佐 古地大祐氏から、港区の多文化共生に係る具体的な取り組みについて講義を受け、地域で外国人を支える「みなと外国人コミュニティパートナー」の活動も紹介されました。そして、パートナーの方々に、それぞれの活動の背景や動機、地域での役割について直接伺うことができました。参加者は多様な経験や考え方に触れ、地域コミュニティにおける支え合いの重要性を実感しました。

■ NPO 子どもと女性のイスラームの会　活動紹介・名古屋港モスク

NPO「子どもと女性のイスラームの会」代表理事のマリアム戸谷玲子氏から、子どもや女性を中心にイスラム教への理解を広め、地域で安心して暮らせる場づくりに取り組んでいることを紹介していただきました。

また、ハラールフード（イスラム教の教えに基づく食材や調理法）についても説明を受け、参加者はエジプト料理レストランでハラールフードを実食しました。

昼食後は名古屋港モスクを訪問し、イスラム教の基本的な考え方やお祈りの作法について学びました。モスクは礼拝の場であると同時に、誰でも訪問できる場所であるとの説明があり、日本語によるガイドブックも用意されているほか、国籍にとらわれない交流が図られているなど地域に開かれた場でもあることを体感する貴重な機会となりました。

■ワークショップ＆振り返り

研修の最後は、2日間の学びを振り返るセッションを実施しました。参加者はグループごとに、自身の地域における多文化共生の課題や、体験塾で印象に残った学びを共有し、「キープレイスの可能性」について議論しました。具体例として、交流館や市民センターの活用、レストラン併設の礼拝所を生かした活動、地域住民と外国人住民の交流の場づくりなどが挙げられました。2日間の現場学習を通じて、参加者はデータや情報だけでは得られない“実感を伴った理解”を深め、今後の地域活動に生かせる多くのヒントを得ました。

おわりに

今回の体験塾では、自治体、学校、宗教施設など、多様な現場を通じて多文化共生の取り組みやキープレイスの実践を学びました。

現在、外国人住民が日本の社会にスムーズに慣れ安心して暮らし、地域社会の一員として活躍できる環境づくりはますます重要となっています。今回の研修で得た学びや気づきは、参加者が自らの地域で具体的な取り組みを考え、実践していく上で貴重な指針となることが期待されます。参加者からは、「研修の経験を地域活動にどう生かせるか考えたい」「現場を体験することで、多文化共生の課題や可能性を実感できた」など、前向きな声が多く寄せられました。

クレア多文化共生部では、今後も体験塾をはじめ、地域の多文化共生を支える取り組みを進めてまいります。

港区役所　意見交換の様子

ハラールフードに関する説明

港モスク　説明の様子